なギターの響きでガツンと攻
ールかくあるべし”なナンバ
ely It's So Quiet」「Let It Rain」
ズ・チルドレン体質な彼らの素
した甘美なポップ・センスが光
be, This Time」では、一見ハ
に映ってしまいがちなOK GO
ガッツを体現してもいる。「い
回ばかりは間違いだろう」。こ
リフレインが書かれたのは、ブ
再選が決まった2004年11月3
この曲の詞を後により自分の内
けたものへと拡大させ、より普
と語っているが、これは彼らが
アスなアティチュードを持った
とを充分窺わせる。
よって、今こうしてこの『Oh
売されるに至った。これによ
ていないこのアルバムをたずさ
ツアーも決して夢ではなくな
したら、あのPVでの華麗(?)
も何らかの形で見ることが出来
(個人的にマシーンのダンスの
このかのジムで実演するのを見て
、僕がそれ以上に嬉しいのは、
ロックンロールのモードを上手
すべき素晴らしい才能がコア・
けで人知れず埋もれることな
ブで高い注目度をもって迎え
ーモアが彼らの最高の武器で
し今後も本当に楽しみだが、
ルそのものでロック・ファン
それは間違いなく、当のOK
んでいるはず。今ここからが
の本当のスタートラインなん

2006年10月29日
田太陽(Hard To Explain)

◆OK GO ダミアンによる『OH NO』各曲コメント◆

今回のアルバムの設定は“惨状”。何もかもが酷い有様になってしまうということ。この国(アメリカ)は、権力に飢えた頭のオカシな連中に支配されているんだ。宗教的狂信が、憎しみと暴力とを国内外に拡大させてる。争い、強欲、傲慢、そして近視眼的な物の見方が、勝利を収めているわけだ。おまけにロック・ミュージックは、つまりそういったあらゆるものから僕たちを隔てるちょっとした“聖地”であるべきロックは、自画自賛を何年も続けてきた結果、専門家や頑固な人たちの好奇心をくすぐるための、小さくまとまった世界の中に引きこもってしまっているんだ。

それでもなお、僕らはパーティーを続けている。これは僕らのヒンデンブルク号(※1)パーティー・ロックであり、僕らのタイタニック号(※2)ダンス・ミュージックっ。つまるところ“惨状”というのは、あらゆるもののために常に用意されている舞台設定なんだよ。何であろうが、どっちみちめちゃくちゃになってしまうものだし、幸福ってやつはいつだって、流れに逆らって泳ぐということなのさ。どうしてそんなものに僕らが屈しなければならないんだ? また同時に『OH NO』は、全てが地獄行きになって、恐怖にひるんだ僕らが上げた叫び声でもあり、そしてパーティーし続けている僕らが、否定的な人々に対して上げている咆哮でもあるんだ。

(※1)ヒンデンブルク号:大西洋横断航路についたドイツ最後の旅客飛行船。1937年米ニュージャージー州で着陸時に炎上
(※2)タイタニック号:ご存知の通り、1912年処女航海の途中で沈没した英国の豪華客船

1) Invincible

この曲は、このアルバムの中で最も古いものであると同時に、最も新しい曲でもある。オープニングのギターリフは――僕らのプロデューサーを務めてくれたトーレが、本作全体の中でも一番気に入ってるパートなんだけど――何年も前に僕がマイクロ・カセットに録音しておいたものなんだ。僕と何人かの友達とでシックス・フラッグス遊園地(※)のジェットコースターに乗った時のテープを探していた時に、偶然これを再発見したんだよ。最終的なヴァージョンに落ち着くまで、このリフを元にしてレコーディングしたものを、丸々2曲、僕らはボツにした。曲が完成段階に至るまでに、僕は6セット分の歌詞を書いては却下したんだよ。そのうちのどれ一つとして、この曲が必要としていた、破滅するということの皮肉な笑いの感覚をうまく捉えてはいなかったように思えたんだ。それで、いいアイディアが浮かぶまで寝かせておいたわけ。僕らがスウェーデンにいる間中ずっとね。で、マルメー(スウェーデン南部の港町)で過ごした最後の週、11月の暗い影の中で、このハルマゲドンについての漫画チックなヴィジョンがようやく形をとるようになったんだ。奴らが地球を滅ぼしにやってくる、そして胸がつぶれそうなほどの女性のすさまじい獰猛さこそが、全人類を守るのに充分な力を持っている唯一の戦力なんだ、ってこと。

(※)シックス・フラッグス遊園地:ニューイングランドにある有名遊園地

2) Do What You Want

ティムはここの所、女の子に夢中になって浮かれていてね。彼はずっとバンドの中でも、冷静沈着で落ち着いた存在だったんだよ。普通ならぼーっとしてしまうほどセクシーな女性が目の前にいても、動揺しないでいられる唯一のメンバーだったわけ。けど、ここ最近、何かが彼の中にそっと入り込んでしまったんだよね。この曲は要するに、去年、彼の頭の中が新しい恋に支配されていた時に、彼がハマり込んでいた“学校は夏休み/学校は永遠に休み”(※1)的な高揚した気分について書いた曲なんだ。スウィートの「ティーンエイジ・ランページ」って曲みたいな、図太くて生意気な“快楽主義のアンセム”って感じにしたかったんだよ。それから、拳を振り上げてるアホどもの馬鹿さ加減に、鼻持ちならない感じの政治的なジャブ(“衝撃と畏怖”と“トリクルダウンの時代”ね)(※2)を1つ2つ喰らわせてやらずにはいられなかったわけさ。パーティーが行われている外の世界の、はちゃめちゃな混乱状況をちょっと思い出させるためにね。

(※1)“学校は夏休み〜”:アリス・クーパーの曲「スクールズ・アウト」の一節
(※2)“衝撃と畏怖”:イラク戦争での作戦名、“トリクルダウン”=“滴りの経済論”:「大企業を優遇して潤せば、その滴りが庶民(の貧困層)にまで及ぶ」という、ブッシュ政権が父親の代から掲げている経済論。イラク戦争でも標榜された

3) Here It Goes Again

このアルバムに取りかかった頃、僕は長年付き合ってた彼女と別れてね。そのすぐ後、ちょうど僕が、神経の渦々まで行き渡っていたヒリヒリするような悲しみから、より自己反省的な、“自分は何者なのかという問題に本気で向き合い解き明かそうとする”って類いのふさぎこみ状態へ進んで行こうとしていた時、大学時代のルームメイトと地元シカゴの小さな飲み屋で会って、“慰め合う会”を2人で開くことにしたんだ。そしたら殆ど予想外というか、最初はちょっとありがたくなかったんだけど、大学時代の他の友人たちが揃ってそこに現れたわけ。彼らは僕らよりも随分明るい調子だったからね。それから間もなくして、全員で僕のアパートメントに戻って来たんだ。

その夜、僕は古い知り合いたちとつるんでたわけなんだけど、その翌朝、自分が彼女にすっかり夢中になっているってことを自覚して、唖然としたんだよ。二日酔いでぼんやりした頭で、僕は虚しく後ろめたいような自己嫌悪に陥るだろうと思っていたんだけど、そこにはこの目も眩むような至福があったってこと。この曲は、彼女が僕のアパートメントから出て行った直後のことについて書いているんだ。ビックリするほど彼女の虜になってしまったというめまいの中で、僕は天井を見つめて笑いながら、こんなにも簡単に無防備になってしまっている自分に驚きながら、頭を横に振っているのさ。

4) A Good Idea at the Time

これはローリング・ストーンズの「悪魔を憐れむ歌」へのアンサーソング。Mr.ジャガーは(その曲の中で)悪魔に、自分の仕掛けた苦悩や破壊を得意げに自慢させているけど、僕らの場合は、“真の”邪悪さとは人間自身の仕業なんだってことを、悪魔に認めさせているんだ。悪魔ってやつは、数々の史上最悪な残虐行為のために、人間界をぶらぶらしてきたのかもしれない。だけど悪魔は、黙ってそれを傍観している単なるいやったらしい見物人の1人でしかないんだよね。キリストが磔刑にされた時、ストーンズの悪魔の場合は、ピラト(※)に手を洗わせ、そして自分の運命を封印させるよう手段を講じている。でも僕らの悪魔は、ピラトに「ここらのバーは何時まで開いてんの?」って訊きに来てるだけなんだ。

(※)ピラト:キリストを処刑したローマの総督。処刑判決に際し、自分には責任がないしるしとして手を洗ったとされる

5) Oh Lately It's So Quiet

僕は普段はそんなに早く歌詞を書けるほうじゃないんだ。大抵の場合は、きっちり油を注したローラースケートを履いて、ツルツルに滑る坂を“考え過ぎ”のどん底に向かって滑り落ちてくって感じだね。だから、ある晩ベッドで横になりながら、この曲がふと浮かんできた時は、しかも殆ど完成に近い形で生まれてきた時は、嬉しい驚きだったよ。このグルーヴとコード展開をずっといじりながら、もっとラウドな曲になるだろうなと思ってたんだよね――(テヴィッド・ボウイの)「ヤング・アメリカンズ」を荒削りにしたヴァージョンみたいなのを想像してた。そしたらその後、この歌詞が空から降霊してきて、突如としてこの方向に向かわずにはいられなくなったんだよ。

6) It's a Disaster

このアルバムの曲作りを始めてから最初の数ヶ月は、主として、約2年間続いたファースト・アルバムのツアーの間に僕らが陥っていた、クリエイティヴな面での退化現象を克服することに一所懸命だったんだ。自分たちの気に入るものに辿り着くまでに、たくさんのくだらないアイディアを吐き出したけれど、数ヶ月経った所で、そんなもの(=自分たちが気に入るもの)が本当に存在するのかどうか、僕らは確信が持てなくなっていた。この曲は正にそのターニングポイントであり、ある意味、このアルバム全体の色調を定めるものになったな。この曲の歌詞は、当時どれほど厳しい状況にあったか、その感覚を伝えているね。

7) A Million Ways

このアルバムの大部分がそうなんだけど、これはスタジオで“生演奏の一発録り”でレコーディングした曲なんだ。この曲は、一切編集しないでいようと固く心に決めてたんだよ。4つ打ちのディスコ・ビートからいかがわしい息づかいを奪ってしまうような、デジタルな“フランケンシュタイン化”(=つぎはぎ作業)による精度は求めていなかった。それで、「これだ!」と思えるテイクを録音できるまで、頑張らなくちゃならなかったんだ。結局、56テイクまでやったよ。僕らが作業していたスタジオの新記録さ。

僕の姉さんは、元プロの社交ダンサーなんだけど、この曲のロバクの振り付けを手伝ってくれたんだよ。

8) No Sign of Life

言うまでもなく、この曲にはピクシーズっぽい要素がふんだんに盛り込まれてるね。僕が13歳の時に、ティムが彼らの曲を初めて聴かせてくれて以来、彼らはずっと僕らのアイドルなんだ。このアルバム全体を通じて、僕らの友人のエリック・ドリュー・フェルドマンのおかげで、ピクシーズの影響が増幅されたよ。エリックは、僕らのデモの多くをプロデュースしてくれた人。彼は想像し得る限り、最もイカした男と言えるね。彼はピクシーズの最後の2作のアルバムでキーボードを担当したり、彼らと何年も一緒にツアーしたり、それからフランク・ブラックの最初の2枚のソロ・アルバムをプロデュースしていたというだけじゃなく、70年代にはキャプテン・ビーフハートのバンドにもいたんだ。そして今はP.J.ハーヴェイと一緒にプレイしているんだよ。

スウェーデン入りしてすぐ、そのデモは、トーレと彼のアシスタント・プロデューサーであるジェンズとの間で、長い議論の的になった。どのくらいピクシーズっぽさを取り入れたら、ピクシーズ風になりすぎるか、ってことでね。この曲に関しては、僕らはトーレに賛成したんだ。僕らが一番好きなバンドみたいな音に“ならない”よう、積極的に取り組むなんてクレイジーだと、トーレは感じていたんだよね。

9) Let It Rain

この曲は、ノイローゼに陥ることの喜びについての曲。感情的な虚脱状態に陥るということには、実存的な意味での一種の深い解放感が伴っているわけ。それで僕らはこの曲を、友達のために書いたんだ。自制心を維持し続けなければという緊張感に満ちた不安から、それを失うことの、華々しくはあるけれど悲痛な混沌状態へと倒れ込んで行った、その友人のためにね。

10) Crash the Party

元々僕らはこの曲を、ある映画のために書いて、デモを作ったんだ(使われることは無かったんだけど)。で、未完成の状態で、とりあえず歌詞を付けて、ツアーで演奏してたわけ。だけど、いざレコーディングに入った段階で、ライヴでずっと歌っていた歌詞から逃れることが殆ど不可能になってたんだよね、僕はその歌詞が大っ嫌いだったんだけどさ。この曲には馬鹿馬鹿しいほど長い時間を費やしたよ。その間は殆ど、ツアー中に僕の頭蓋骨をこじ開けて脳の中に入り込んだヴァージョンを忘れようと、ひたすら努力してたってわけ。

11) Television, Television

トーレがあれほど偉大なプロデューサーである理由は、細部にとらわれて道を見失ってしまうことなしに、細部に目を配り、それに対処することができる所にある。今回のアルバムには壊れたようなひしゃげたドラム・サウンドが必要だってことでは、みんなの意見が一致していたんだけど、実際に腰を落ち着けてそれを演奏する段階になった時、ダンは自制心を総動員して、自分の使っているガレージセールで6ドルで買ったぶっ壊れたスネアを、直さずにそのままにしておかなくちゃならなかったんだ。彼がそれをちょっとチューンアップするたびに、トーレはすぐにトークバック・マイクを通して、事も無げにこう言ったもんさ、「何やってんだ、ダン? スティングはもうこの建物内にはいないよ」ってね。この曲では、完璧なまでにヒドい調子のドラムの音が聴けるよ。

12) Maybe, This Time

この曲の基本となる部分はアンディが書いたんだけど、元々それを思いついた時は、コーラス部分で急に爆発するようなアンセムとして考えていたんだ。スタジオでこれをバンドとして一緒に演奏するようになって、段々この不気味な、よりダークな曲調へと方向転換していったんだ。

この曲の歌詞は、11月3日の早朝(※)、アメリカが取り返しのつかない危機的状態に突入する様を見つめていた後、あまりのことに驚愕して、信じられない思いと憤激に駆られて書いたんだ。数日後、自分が書いたものを見直したら、それがあまりに陳腐で説教じみていたんでギョッとしたんだよ。それで僕は、その歌詞を自分自身に向けたものにし、自分が普段一番自己嫌悪に感じている所を攻撃することにしたんだ。

(※)2004年11月2日に米大統領選が行なわれ、3日にはブッシュ大統領の再選が決まった

13) The House Wins

実はこれは、ロスの友達の家の地下室で僕が録音したデモなんだ。新たにドラムを録り直し、ヴィオラを入れてるんだけどね。レコーディングに入って数週間経った頃、僕らはこの曲を既にトーレと再レコーディングし終えていたんだけど、それでもオリジナルにはどこかもっと、人を動かさずにはおけない何かがあると思えたんだ。

歌詞的には、これは僕がこのアルバムの中でも一番気に入ってる曲。第3ヴァースが、このアルバム全体の設定としての役割を果たしている。幻滅感を要約しているんだ。

「選ばれし本命の破滅的な氷河時代の上に訪れる氷河期、そして唯一の結論が少しずつ滴り落ちてくる:胴元が勝つようにできているということ/もしも悪が正義よりも劣った種族であるならば、これほどの年月を経た末には、正しき人々がこの“罪に満ちた世界”を救っていたはずであろうのに/賭けは“親”が勝つもの、常に胴元が勝つようにできているのだ」

訳:今井スミ

1. インヴィンシブル

連中がついに地球を破壊しに来ることになったなら
まず君との対決を強いられるだろうね
やつらはきっとそんなこと夢にも思っちゃいない
連中がついに地球を破壊しに来ることになったなら
まず君との交渉を強いられるだろうね
君の瞳の裏側には
華氏1,000度まで熱せられた金属があることを
やつらはきっと知らない　僕のお金がそう告げている

君は無敵
破壊的で圧倒的　原子核をも砕く灼熱の存在　君は無敵

連中がついにやって来たなら　君はどうするつもりだい?
僕にしたのと同じように痛めつけるのかい?
やつらの度肝を抜いて　言葉を失わせるつもりかい?
連中がついにやって来たなら
君はどうあしらうつもりなんだい?
じっくりと始末するつもりかい?
君の瞳の裏側に潜んでいる華氏1,000度の熱い金属に
立ち向かう心の準備をやつらはしていない　僕はそう思うね

君は無敵
破壊的で圧倒的　原子核をも砕く灼熱の存在　君は無敵

だからその力を永遠に使ってくれ

君は無敵

2. ドゥ・ホワット・ユー・ウォント

なるほど　君は雷鳴の中に生まれて
太陽をかじってから
二人乗りの機械の中で自分の未来を見たと言うんだね
今や君の光線は僕を狂わせ　威嚇し
畏怖の念を抱かせ　驚嘆させる
紙吹雪の舞うパレード　そして僕　それだけの話だけど
何かが間違っていた

夜が来て空中でタップダンスするまで
君は声の限りに叫んで言った

「さあ　ほら
やりたいようにやれよ
一体何を間違えるっていうんだ?
ああ　さっさと
やりたいようにやれよ
さあ　ほら
一体何を間違えるっていうんだ?
やりたいようにやればいいじゃないか」
よしてくれ

僕かい?　僕はトリクルダウン時代のさなかに育ったんだ
霞の中で麻痺して目覚めて
二人乗りの機械の中で未来を見たのさ
だけどあの光がある種の恐怖を僕に与えたんだ
間違っていたはずの物が
いかに正しくなれるかを知ってしまったからね
夜の闇の中でよろめきながら歩く僕をあの光は導いてくれた
ああ　何かが間違っていた

だけど君は夜中に空中でタップダンスして
声の限りに叫んで言った

「さあ　ほら
やりたいようにやれよ
一体何を間違えるっていうんだ?
ああ　さっさと
やりたいようにやれよ
さあ　ほら
一体何を間違えるっていうんだ?
やりたいようにやればいいじゃないか」
よしてくれ

＊トリクルダウン:大企業や富裕層が富を増すことによって経済活動が活性化され、結果的に低所得者層を含めた社会全体が豊かになると考える経済理論。

3. ヒア・イット・ゴーズ・

もしかしたら今は10時なの
4時15分前から30分後のこ
急いで服を着て　『サーファ
出て行ってくれ　床にアゴを

君が君自身のことを大丈夫だ
心が落ち着いたと君が思った
絶好調だと君が思った途端

ああ　例のやつが始まるんだ
ああ　例のやつが始まる
僕は知っておくべきだった　知
知っとけば良かった　またあれ
ああ　例のやつが始まる

まるで単純でどうでもいいこと
あれはゆっくりと始まる
最初は保護区の端っこを
何かが静かに横切っているに過
今　安っぽいペネチアンブライ
君の車が舗道から離れていくと

君が君自身のことを大丈夫だと
心が落ち着いたと君が思った途端
絶好調だと君が思った途端

ああ　例のやつが始まるんだ　ま
ああ　例のやつが始まる
僕は知っておくべきだった　知っ
知っとけば良かった　またあれが
ああ　例のやつが始まる

この単調さにもいつか終わりが来る
なんてことだ　いつまでも雨が降り
急いで服を着て　『サーファー・ロ
出て行ってくれ　僕を残して

ああ　例のやつが始まる　またあれ
ああ　例のやつが始まる
僕は知っておくべきだったんだ　知
知っとけば良かった　またあれが始
ああ　例のやつが始まる

4. ア・グッド・アイディア・アット

まさに僕の趣味　まさに僕の豊かさ
サンクトペトロブルクには特別な何
僕自身は一度もそこに行ったことが
So come on
アナスタシアは一晩中泣いていたの
僕自身はそんなことは口に出せなか
So come on, yeah come on

君の礼儀正しさは認めるよ
しっかりと身についたその上品さは
だけど君は君自身を混乱に追いやっ
分かるだろう　悪魔ってやつは計画
考えついた時にはいいアイディアだ

あの時はいいアイディアに思えたん

どんな風にそれが破綻したか　知っ
僕が彼に訊いたのは
いつバーが閉まるかということだけ
So come on

君の礼儀正しさは認めるよ
しっかりと身についたその上品さは
だけど君は君自身を混乱に追いやっ
分かるだろう　悪魔ってやつは計画
考えついた時にはいいアイディアだ

あの時はいいアイディアに思えたん
で　君はそいつをどうするつもりな

まさに僕の豊かさ　まさに僕の趣味
だけど君は僕からの助けを必要とせ
So come on

あの時はいいアイディアに思えたん